

株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

平成22年3月期第3四半期短信、プレスリリースなど、当社の近況をご報告させていただきます。

今後ともより一層のご支援を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

① 平成22年3月期 第3四半期 業績のご報告

● ● ● 連結経営成績に関する定性的情報 ● ● ●

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、国内外の景気刺激策により回復の兆しが見られるものの、依然として企業業績の低迷、厳しい雇用・所得環境が続いており、個人消費は低調に推移しております。

当社グループの属する健康関連業界も、中高年を中心とした健康意識の高まりが持続しているものの、個人消費の低迷及び物価の下落に伴う消費者の価格選考意識の高まり等当社グループを取り巻く環境は厳しいものとなっております。

このような環境の中で、当社グループは①縮小均衡の打破 ②ブランドの拡大と育成③顧客指向の徹底を目指し、ヘルスケア分野並びにカプセル受託分野において平成21年度の施策展開を積極的に実施しております。

その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は5,782百万円(前年同期比5.3%減)となりましたが、生産コストダウンを中心とする売上総利益率の改善、販売促進・広告宣伝費を含む全社的な経費削減に鋭意努力を重ね営業利益153百万円(前年同期比27.5%増)、経常利益145百万円(前年同期比14.1%増)、四半期純利益134百万円(前年同期比114.0%増)となりました。

健康食品の通販ビジネスを中心としたヘルスケア分野

においては、前年同四半期比14%増と好調な主力商品「ビフィーナ」及びダイエット商品が順調に伸びを示したものの、競合が激しい青汁等他商品群は概して苦戦を強いられました。

国内小売店向ビジネスにおいては、メディカルケア分野では新型インフルエンザの流行により「メディケア」ブランドシリーズのウイルス関連商品及び電子体温計の新規販売が好調に推移しました。オーラルケア分野においては、新製品の医薬部外品「JINTAN 116」を11月に東京地区で先行販売しましたが、第3四半期累計期間での利益貢献は僅少であります。

一方、カプセル受託分野では海外からのプロバイオティクス及び機能性カプセルの受託が好調だったものの、フレーバー、乳業及び医薬品関連の受託が落ち込み、さらには円高の影響もあり販売金額は前年同期を大きく下回る結果となりました。

連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期第3四半期	5,782	△5.3	153	27.5	145	14.1	134	114.0
21年3月期第3四半期	6,109	—	119	—	127	—	62	—

(平成22年2月12日公表)

② 岡山大学とシームレスカプセルを利用したシロアリ駆除剤の開発に着手

当社は、既に公表している合成高分子樹脂を皮膜とするシームレスカプセル開発に関して、国立大学法人岡山大学大学院環境学研究科の松浦准教授らの研究グループと、本合成高分子樹脂皮膜シームレスカプセル技術を応用したシロアリ駆除剤の開発に着手しました。

シロアリは、木材自体を摂食するため、家屋の構造物を蝕み、地震の際の木造住宅での被害は甚大で、その駆除の市場規模は全世界で1000億円以上の市場規模といわれています。

従来の駆除は対象箇所に薬剤を散布する方法で実施されていますが、木材の中に潜んでいるシロアリまで完全に駆除することは難しく、駆除剤を大量に散布することによる環境への影響が懸念されます。松浦准教授らの研究グループは、女王アリの産んだ卵を働きアリが育室に持ち帰り、舐めて世話をするシロアリの習性に着目し、擬似卵型の駆除剤を用いることで高度な社会生活を営んでいるシロアリを最も効率的かつ巣全体を完全に駆除する方法の確立を目指しています。

この度、当社は合成高分子樹脂を皮膜とするシームレスカプセル技術応用の一環として、松浦准教授らの研究グループと産学連携体

制(大学-企業間連携)でこの様なシロアリ駆除剤の実用化に向けた開発の取り組みを開始しました。本取り組みに関しては、本年7月に独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構生物系特定産業技術研究支援センター平成21年度「イノベーション創出基礎的研究推進事業」の課題テーマとして採択され、岡山大学松浦准教授らの研究グループと当社を含む3社共同で開発することが決定しました。

当社の取り組みは、様々な素材、形態の合成高分子樹脂を皮膜とするシームレスカプセル技術を利用し、シロアリに卵として認識され、巢内に運搬された後に効率よく殺虫成分を放出させるための擬卵基材の開発です。シロアリは卵の短径(0.4~0.5mm程度)を挟んで運びますが、当社のシームレスカプセル技術は微細なカプセル製造が可能のため、擬卵の製造に適していると考えます。

当社では、シームレスカプセルの応用開発に積極的に取り組んでおり、医薬品分野やプロバイオティクス、フレーバーなどの分野で既に事業化されていますが、今後は本取組をはじめ工業用途への展開も考えています。

「仁丹歴史博物館 2010」が開催されました

2月11日に「仁丹歴史博物館 2010」が開催されました。当社にも保管されていない貴重な仁丹ホーロー看板の特別展示やトークショーなどが行われ、会場になった本社には、たくさんのお客様にご来場いただきました。

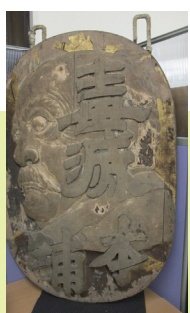


当社の創業日であり、「仁丹」発売日でもある2月11日は「仁丹の日」。2年前に日本記念日協会に申請、承認されたもので、以来毎年この日には1日限定で本社にて入場無料の「仁丹歴史博物館」を開催しています。会場には、仁丹発売当時の仁丹ケースや、明治時代からの新聞広告の原本、なつかしいテレビCMの画像など、創業からの歴史を振り返る数々の展示が行われました。中でも注目が集まったのはホーロー看板コレクターである佐溝力氏の「サミゾチカラコレクション」より特別に里帰りした仁丹ホーロー看板の数々。また、佐溝力氏の他にノンフィクション作家の谷川彰英氏によるトークショーも行われました。さらに会場では、TVチャンピオンでケーキ職人チャンピオンに輝く宮本雅巳氏とのコラボレーションにより「仁丹チョコ&マカロン」が限定発売されました。



●パティシエ宮本雅巳氏(左) ●来場者には今春全国発売予定の「JINTAN 116」が配られました(右上)
●展示風景(下左) ●本社1階では、商品の即売や、当社が運営するデンマーク生まれのヘルシーなフレンチドック「ホールドバゲット」の販売が行われました(下右)

展示品のご紹介 会場に展示された看板の中から、一部をご紹介します。



① 第1号商品 「毒滅」の木製看板

1900年に発売された当社の第1号商品である梅毒新薬「毒滅」の看板。ドイツの宰相ビスマルクがモチーフともいわれています。



② サミゾチカラコレクション

愛知県豊川市の「看板と広告の資料館」の「サミゾチカラコレクション」より、特別に数点が里帰り展示されました。



③ 最古(?)の木製看板

佐溝力氏所蔵の幻の看板。まだ仁丹マークができる以前のものか？ また、住所表示に広告があるのは、当時の画期的な方法だったとか。

TALK SHOW



◇佐溝力氏

佐溝力氏・作家谷川彰英氏 トークショー

今回、ホーロー看板コレクター、佐溝力氏とノンフィクション作家、谷川彰英氏によるトークショーが行われました。

トークショーのテーマは「大阪の歴史と仁丹」。「広告には当時の世相を読み解く楽しみがある」と言う佐溝力氏は「森下仁丹の看板は、広告で世に貢献するという姿勢がよく出ていて面白い」など、コレクターならではの視点で様々なお話を語っていただきました。ベストセラー「大阪「駅名」の謎」などの著作がある谷川彰英氏には大阪の地名の由来についてお話しいただきました。会場はほぼ満席の盛況ぶり。客席では、興味深そうに話に聞き入る人の姿が多く見られました。



◇谷川彰英氏